



冷媒の循環型環境対応スキーム 『eR ネットワーク®』

低GWP冷媒 オプテオン™ XP40 (R-449A) /XP41(R-463A-J) 採用へ

株式会社イズミ 様 (本社:広島県広島市) が、
循環型環境対応スキーム『eR ネットワーク®』を
採用しました。

株式会社イズミは、中国地方・九州地方を中心にショッピングセンター『ゆめタウン』、スーパーマーケット『ゆめマート』を展開しております。
『イズミ エコ・アクション』という環境方針のもとESG対応 (環境/社会/企業統治) を大切に事業を展開され、今回 三井・ケマーズ フロロプロダクツ (株) が提案する冷媒の循環型環境対応スキーム『eR ネットワーク®』をご採用頂きました。



『eR ネットワーク®』とは？

地球温暖化などへの対応として世界的に環境規制が強化されるなか、規制移行期間における“止めないビジネス”の提案が『eR ネットワーク®』です。三井・ケマーズ フロロプロダクツ株式会社 (MCF)の次世代低GWP冷媒オプテオン™XP40 (R-449A)/ XP41(R-463A-J) 採用機器への更新に際し、新規冷媒充填時のCO₂換算枠の消費を削減し、環境負荷を低減します。同時に、排出される機器から規制対象冷媒を回収し、MCFの高純度蒸留精製技術で新品同等の品質で再生処理します。そして、保存されたCO₂換算枠と再生冷媒を合わせて、更新待ち機器への補充メンテナンス向けに使用することで、次世代低GWP冷媒採用機器への更新から既存冷媒の回収/再生、更新待ちの機器への補充メンテナンスと冷媒を循環させ、規制移行期間における“止めないビジネス”を達成するものです。同時に次世代冷媒採用機器による省エネ性効果により将来的な競争力を強化することを可能に致します。

*1 GWPとは温暖化係数のことで、二酸化炭素の温暖化能力を1 (基準) とした場合に、各種のフルオロカーボンの温暖化能力が基準となる二酸化炭素と比較しどの程度になるかを示した指標です。



『環境に配慮しながら、スムーズで計画的な設備更新が可能』

今回『eRネットワーク®』を採用する事にした決め手は2点です。

1点目は、オプテオン™XP40 (R-449A) が環境負荷低減になる次世代低GWP冷媒であり、この環境規制下における政府のガイドラインを遵守できる点です。また、オプテオン™XP40 (R-449A) は**将来にわたり供給が安定している**点も、長期にわたる設備更新計画には重要でした。

2点目は、入手が困難になりつつある現行冷媒 (R-22、R-404A) を回収・再生し、再利用する事で、**設備更新をスムーズかつ計画的に進められる**点です。再生冷媒を活用する事で、既存機器の稼働を確保しながら計画的に更新できる点が安心につながりました。また、冷媒を再生処理する事でCO₂の排出を抑える事ができ、『eRネットワーク®』は**環境に配慮したスキーム**であると考え、採用を決めました。

オプテオン™の特徴

オプテオン™は、オゾン層を破壊せず、地球温暖化係数 (GWP) の低いハイドロフルオロオレフィン (HFO) 系低GWP冷媒です。最適化された性能バランスを誇り、冷蔵冷凍分野にてR-22、R-404A、R-410Aの代替品としてラインアップを取り揃えています。

また、エネルギー効率にも優れた冷媒で、現行冷媒に比べてエネルギー消費が抑え、電力消費量の削減に貢献します。

フロン類の適切な回収・処理に向けた国際的枠組みへ参画

2019年12月 スペイン・マドリードで開催された第25回 国連気候変動枠組み条約締結国会議 (COP25) にて旗揚げが行われた、21の国や団体が参加する、各国でのフルオロカーボン類のライフサイクルマネジメントの導入を目指すイニシアティブに参画しました。

MCFの提唱する冷媒の循環型環境対応スキーム『eRネットワーク®』は、フロン類の適切な回収・処理を促すと同時に、規制移行期間における“止めないビジネス”を両立します。

<https://www.mc-fluoro.co.jp/news/1060/>



環境省公式 Twitter より



三井・ケマーズ フロロプロダクツ株式会社

ケミカル事業部門 環境冷媒営業部

〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-1-17

渋谷町プライムプレイス7階 TEL:050-3823-0650

Opteon™ (オプテオン™) とその商標は米国ケマーズ社が独占的に所持するものです。



[オプテオン™ 冷媒 ウェブサイト](#)